

## 平成30年度 社会福祉法人白鳩会事業報告

大都市圏を中心に慢性化する待機児童対策として、認可保育所や小規模保育所などの整備が加速的に増える一方で、その大都市においても定員割れを起こす園や職員の確保がままならず園児の確保ができない園が数多くみられる現状に今後の法人、施設の経営に対して不安を感じます。

また、翌年度から始まるとされる「幼児教育・保育の無償化」により園の長時間利用など利用者のニーズに変化が見られることが考えられることから職員の働き方の見直しをも行わなければならないなど準備すべきことは山積しています。

しかしながら、世の中や制度がどのように移り変わろうとも、日本の未来の宝物である子どもの成長と発達については保護者や地域と共に丁寧に育てていかなければならないことは何ら変わりはないため、平成30年度に改訂された、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基に各園の保育の見直しや指針に沿い、子どもの成長発達に応じた保育を進めてきました。

平成30年4月に守口市から移管を受けた幼保連携型認定こども園 ゆずり葉こども園の運営を開始しました。

老朽化が進み、修繕箇所が多く予算以上に修繕費を支出せざるを得ない状況となりました。

公立保育所との保育の違いから、家庭保育を含めた園児の一日の生活習慣の構築から始め、運動や園外保育など多様な経験をさせてあげることで少しずつ日々の生活が落ち着いて過ごせるようになり、保育運営も安定してきました。

### 《施設数》10施設 11事業

(幼保連携型認定こども園4施設、保育所6施設、学童保育1事業)

### 《職員数》正規職員 206名 非常勤職員 120名

(その他、給食会社の委託職員、派遣会社からの保育士等が勤務)

### 【財務状況について】

- 各施設とも人材確保が思うように進まず、それに伴い園児の受け入れを減らさざるを得ない状況の中、年度途中での職員採用などにより何とか昨年度並みの受入数は維持することができました。
- 平成11年度に白鳩チルドレンセンターの建物部分の借入金について福祉医療機構への償還が10月で完済となりました。
- 白鳩チルドレンセンター東大阪、ゆずり葉こども園においては施設・設備の老朽化による修繕費が当初予算以上に嵩みました。この先数年も同じ状況になることが予想され、慎重に予算の執行をすることとします。
- 東京で運営する2施設の経営は堅調ですが、浜竹保育園においては西糀谷しろはと保育園にある、処遇改善手当Ⅰ・Ⅱ、人事院勧告による差額調整手当、東京都キャリアアップ補助金が委託費に含まれておらず、園から持ち出すことになり、同じ区内での運営でありながら人件費率に大きな差が出ています。

- その他、白鳩チルドレンセンター八雲中は府内でも地域手当が高く、1号認定児を多数受け入れていることから歳入が多くありました。

#### 【人材について】

- 人材確保は各園とも変わらず人材確保に苦慮しました。特に正規職員、新卒職人の採用が困難で、長時間勤務が可能な非常勤職員の配置で補うことや人材紹介会社から年収の25~30%手数料を支払い採用するなど対応しましたが、この状態が続くことは既存職員の労働環境や財務的にも良い状況ではありません。
- 各園とも、学校訪問や各種団体主催の就職フェア、実習生の積極的な受け入れ等を行いました。既存職員の育成については、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の改正に応じた保育の実施及び園内外での研修への参加や、一部園では保育の可視化や子どもの成長・発達の状況を写真を使い、保護者が理解できるようにした「ドキュメンテーション」の採用などを行い、網羅する内容を園内研修として実施しました。
- 処遇改善手当Ⅱの支給の条件となるキャリアパス研修には各園、手当の支給対象者にマネジメント、乳児保育、幼児保育などを受講しました。
- その他、各園において保育内容、造形、絵画、人権などの各研修を実施、派遣しました。

#### 【地域における公益的取り組み】

- 養成校の実習生や職業体験・ボランティアの受け入れ（全施設）
- 補助金事業以外の子育て支援家庭の親子教室の実施（東大阪）
- 保育園経営の団体が実施する子育て支援家庭に対するイベントを市との連携で実施（東大阪）